

41 元禄文化

●17C半～18C初の文化… 元禄文化

元禄文化は、5代将軍綱吉のころの文化で、上方（京都・大坂）を中心に栄える文化だ。元気はつらつ明るい文化だ。現世は浮き世として肯定。

1 儒学の隆盛

(1)朱子学：大義名分論（上下の秩序だね！）君臣の別・上下の秩序を重視

朱子学が主流になった理由：大義名分論（君臣の別・上下の秩序を重視する）を唱えたから、身分制社会である幕藩体制を支える倫理思想として、徳川家康以下の幕府によって、自己の支配を正当化するための思想として採用されたのだ！ご都合主義だね！

京学 創始者→藤原惺窩

- ① 藤原惺窩：相国寺の僧 家康に招かれるが辞退し林羅山を推薦
- ② 林羅山：家康に仕える。林家の祖。封建的秩序を正当化する学問として近世朱子学を大成。『本朝通鑑』（漢文の日本通史）を書いた。
- ③ 林信篤：綱吉が大学頭に任命。綱吉が湯島に聖堂を作りこれを任せる。
ここに付属の聖堂学問所を作った
- ④ 木下順庵：加賀藩主前田綱紀に仕える
- ⑤ 新井白石：順庵の弟子で正徳の治を推進 著作も大切！



史論	『 <u>読史余論</u> 』幕府の正統性を説く
古代史研究法	『古史通』
自叙伝	『 <u>折りたく柴の記</u> 』
西洋研究	『 <u>西洋紀聞</u> 』『采覧異言』

※順庵の弟子あと二人

- ⑥ 室鳩巢：吉宗の侍講
『六諭衍義』清朝の初め編纂された皇帝の道德に関する勅令の集成。やさしく和訓にして広めさせた。父母に孝順、長上を尊敬、郷里に和睦、子孫を教訓
- ⑦ 雨森芳洲：対馬藩に仕え、日朝外交の実務を担当
南学 戦国時代、南村梅軒が土佐の吉良氏に招かれて始まった。
- ⑧ 山崎闇斎：会津藩主保科正之に仕え、垂加神道（神道+儒教）創始

ちごう

- (2)陽明学…知行合一（理論よりも実践を重視）明の王陽明創始、朱子学は空理空論じゃ！
- ① 中江藤樹：近江聖人と呼ばれた、日本陽明学の祖『翁問答』
- ② 熊沢蕃山：岡山藩主池田光政に仕えた『大学或問』で武士の帰農などを説き、幕政批判の罪で下総古河に幽閉された。

☒陽明学

陽明学はおおざっぱに言えば「動機オーライ主義」とも言うべきエートスの問題、

「結果オーライ」の対義語で、「はじめよければあとはどうなってもよい」、純粹でピュアな気持ちで考えて「今の世の中は間違っている！こっちが正しい！」と心の芯から感じいったのであれば、あとは既存の法令や社会の通念はおろか、自分の行為がもたらす帰結についても一切考慮することなく突っ走ってよい、結果は必ずついてくるはずだ、いやついてこなくてもそれはこの俺様の魂の叫びに反応しない周囲の不純な連中が悪いのであって、俺のせいではないのだからかまやしない、というような発想のことです。長い人生、誰でも一度や二度は、そんな気持ちになった経験があるのではないのでしょうか。まあ、パンクロック系の「De-stroy!!!」みたいな話でしょう！

(3)古学派…孔子・孟子の原典へ回帰せよ **正しいのは誰だの世界！**

聖学

① 山鹿素行：『聖教要録』で朱子学批判し、赤穂に配流された。
☒寛文異学の禁

儒学において思想統制が行われた。「道」とは日常生活の行為における「条理」（筋目）のことであり、日常生活を明らかにすることを説くものであった。この実学傾向が保科正之らの幕府要人の忌み嫌うところとなり（朱子学批判）赤穂に配流された。

古義学

② 伊藤仁斎・東涯：京都の堀川に私塾古義堂を開き、武士・町人を育てた。個人的修養道德を重視し哲学的立場だ！

古文辞学

- ①古典文献の研究法を確立、これで聖人の道を求めた。
- ②政治を重視（ここか古義学との違いで、政治と道德を分けて考えた。ここから経世論=経世済民の思想が生まれた。
- ③ 荻生徂徠：江戸に稷園塾を開いた。吉宗の侍講に（鳩巢とペアで覚える）著作『政談』は、吉宗に献上した意見書だ。
- ④ 太宰春台：徂徠の弟子で徂徠の経世論を継承した。著作『経済録』

2 諸学問

蘭学以前：中国の自然科学の影響下で独自の研究があった。

(1)本草学

- ① 貝原益軒：『大和本草』
- ② 稻村若水：『庶物類集』

(2)和算

- ① 吉田光由：『塵劫記』
- ② 関孝和：『発微算法』和算の大成者※日本の数学=和算

(3)蘭学の発展：オランダからの西洋の学→洋学へ

鎖国下の西洋知識 →如見と白石はペアで覚える。

- ① 西川如見：『華夷通商考』

- ② 新井白石：『采覧異言』『西洋紀聞』
白石の著書は→イタリア人宣教師シドッチの尋問書

☒

蘭学発達の契機は、享保の改革での→漢訳洋書輸入の禁の緩和は大切。

Pain is inevitable Suffering is optional

(4)歴史

元禄期：水戸藩 **徳川光圀**、**彰考館**を設立

※江戸初期 **貞門派** … **松永貞徳** (京都) 近世俳諧の基礎 **滑稽を中心**

→ **談林派** … **西山宗因** (大坂) より自由・奇抜な趣向 ex. 矢数俳諧(数と早さを競う)

蕉風 俳諧…さび・しおり・細み 繊細な感覚と言外の余韻を重視

松尾芭蕉 …伊賀の武士 新興商人・豪農とのつながり

紀行：『**野ざらし紀行**』(名古屋など) 『**奥の細道**』(東北北陸)

句集：『**猿蓑**』

小説 ※江戸初期：仮名草子…仮名を多く 宗教色が濃い

浮世草子 …“浮き世”の世相・風俗 (ex. 遊里) 現実・人間本能を直視

→ **井原西鶴** …大坂の商人 談林派の俳人 出版業の隆盛とのつながり

好色物 『**好色一代男**』(浮世草子の創始)、『好色一代女』、『好色五人女』

町人物 『**日本永代蔵**』(越後屋など成功談)、『**世間胸算用**』(大晦日の悲喜劇)

武家物 『**武道伝来記**』(敵討)、『**武家義理物語**』 その他多数

井原西鶴の小説を浮世草子と呼ぶ。上方町人の世界を描き、人間の本能を肯定したので、上方の町人に大受けした。近松門左衛門と西鶴とのひっかけ問題が頻出。

『日本文化史の整理と演習』神原一郎 著 河合出版

演劇 **人形浄瑠璃**…物語・三味線・操り人形の三者一体

浄瑠璃はもともと平曲(琵琶法師が語る例のヤツ)と同じように、「悲しい悲しい浄瑠璃姫の物語」などを語る「語り物」なのだ。…浄瑠璃節+三味線+操り人形が結びついて、新しい芸能としてスタート。

『日本文化史の整理と演習』神原一郎 著 河合出版

3人の天才が現れて全盛期を迎える。

近松門左衛門 (脚本)…京都の武士(牢人) 封建制下の義理と人情の葛藤

こくせんやかつせん

時代物 『**国性爺合戦**』

(明の遺臣の子 鄭成功=の活躍をテーマにしていることも大事)

世話物 『**曾根崎心中**』、『**心中天網島**』

しんじゅうてんのあみじま

竹本義太夫 …大坂出身 語り **義太夫節**を創始

辰松八郎兵衛…人形操りの名手 …は発展レベル

歌舞伎: ※江戸初期…女歌舞伎(遊女)若い**アイドル系**の歌舞伎→若衆歌舞伎(美少年) **ジャニーズ系**の歌舞伎 → **風俗が乱れると幕府は禁止** → 野郎歌舞伎…成人男性が演じる 内容・演技を重視

常設芝居小屋が生まれ、演技本位に(当然だよ、野郎でだけじゃね。レベルの高い演技力なきや)。近松脚本で大当たり。その上すごい役者が出てきたのだ。二人の得意技と江戸・大坂の区別勝負

主な役者 **市川団十郎** (江戸)…荒事(武人など勇猛さを強調) **チャンバラ系**
坂田藤十郎 (上方)…和事(色男の優美さ) **恋愛物系**。「アホの坂田でわかりやすい」

芳沢あやめ(上方)…女形(おやま)

●元禄美術

建築 **東大寺大仏殿**(1709)←松永久秀の兵火で焼失1567 善光寺本堂1707など

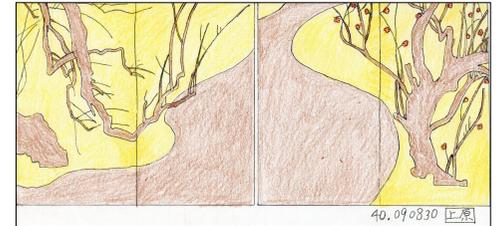
彫刻 **円空**…臨済僧 各地を遍歴 (円空

仏)12万體

絵画 ④御用絵師

住吉派…土佐派から分派 **住吉如慶**…創始、子(幕府御用絵師『洛中洛外図巻』)が発展

⑤民間で ex. **尾形光琳**…京の商人 俵屋宗達の影響→ **装飾画**の大成



紅白梅図屏風 40 上原

『**紅白梅図屏風**』、『燕子花図屏風』
一蝶(狩野派を破門) 岩佐又兵衛(大和 絵新派:浮世絵の源流)

◎ **浮世絵**の誕生…町人社会に題材 **肉筆画**→木版に(安価・大量)…『**見返り美人図**』(肉筆)

浮世絵版画を創始

→ **菱川師宣** 版画浮世絵の祖

宣の字に注意

鳥居清信…鳥居派の始祖 役者絵

工芸

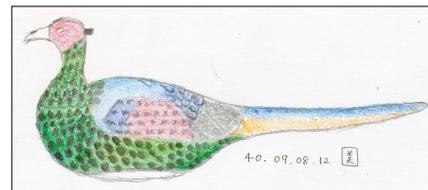
→ **尾形光琳**…本阿弥光悦を継承 『**八橋蒔絵硯箱**』(伊勢物語に題材)

→ **野々村仁清**…京の陶工

京で色絵→ **京焼**の祖

いろえとうかもん

ex. 『色絵月梅文茶壺』 『**色絵藤花文茶壺**』 『色絵雉香炉』



色絵雉香炉 40 尾崎美久

染色 **宮崎友禪**…京の絵師 光琳の画風で下絵→ **友禪染**を創始

※当時の風俗

町人: **元禄小袖・振袖**の流行…元禄模様 農民:筒袖・股引 **土蔵造・瓦屋根**の普及

